

くまびょう

83号

NEWS

くまびょう
NEWS2004年
5月1日

[発行所]

国立病院機構熊本医療センター
(前 国立熊本病院)

〒860-0008

熊本市二の丸1番5号

TEL (096) 353-6501(代)

FAX (096) 325-2519

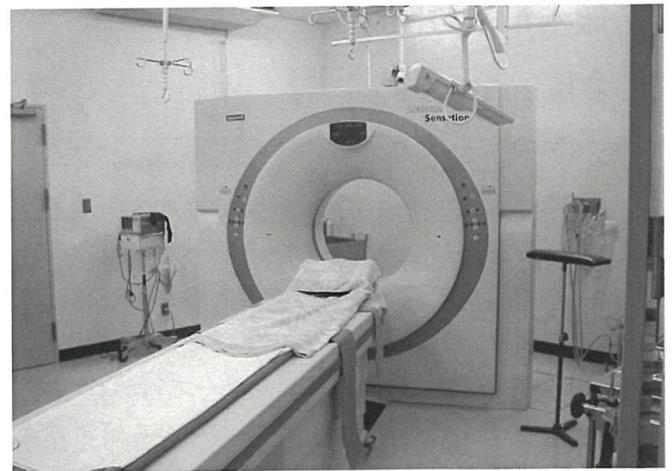
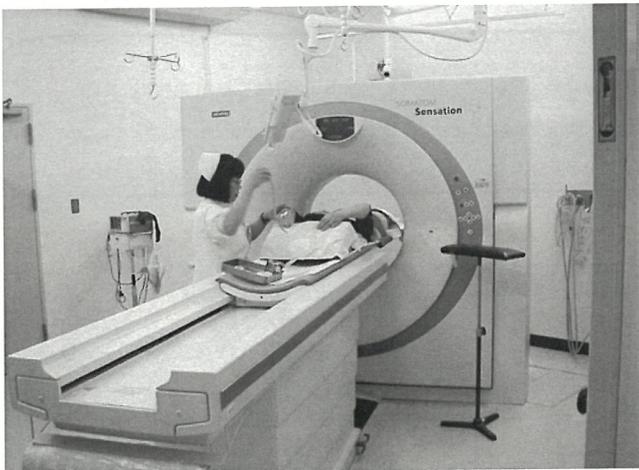


待望の新型CT導入なる



画像診断・治療センター
放射線科医長
古閑 幸則

この4月、当院に新型CT（シーメンス社製10列検出器型CT：SOMATOM Sensation 10）が導入されました。X線管球1回転につき10 slicesの画像が得られるような超高速ヘリカルCTです。Scan speedが速い為、短時間で検査が終了するだけでなく、患者さんの息止め時間が短く、患者さんに優しいCTです。また速いだ



けでなく大量の緻密な画像データが得られるため、画像が鮮明であり、しかも横断像だけでなく冠状断像や矢状断像なども明瞭に得られるようになっています。またhigh speedであることから広い範囲の高精細3D-CT血管造影も可能であり、気管支や大腸などの管腔臓器においては精度の高い仮想内視鏡が可能です。CTガイド下肺生検においてはCT透視も可能であり、より正確により速く生検が遂行できるものと期待されます。

以上のような多くのメリットを備えた新型CTの導入により、当院では診断だけでなく治療面においても質的量的に一段と向上するものと期待されており、このCTがいつまでも可愛がって戴けるようお願いしています。写真は新型CTの全貌です。

ホームページをご利用下さい。診療、研修、研究など情報満載です。

国立病院機構 熊本医療センター ホームページアドレス

<http://www.hosp.go.jp/~knh/>





熊本市歯科医師会と 国立病院機構熊本医療センター

熊本市歯科医師会

会長 古賀 明



熊本市歯科医師会が国立病院機構熊本医療センターとの連携について取り組み始めたのは、平成9年後方支援病院としての協力依頼をお願いしてからの事です。そして平成10年2月第4回開放型病院連絡会が地域医療研修センターで行われた時、当時の歯科医師会の役員のみ参加から始まりました。さらに7月第5回の連絡会が国際交流会館で開かれた時には会員の先生方にも呼びかけ、この病診連携を本会で積極的に取り組む運びとなり

ました。この時参加した歯科医師は登録医となり、廊下で顔写真を撮られたのが懐かしく思い出されます。それから年々会員の登録医も増え続け現在では102名になっております。また、毎年歯科医師会館で行っていた会員、スタッフの救急蘇生法の講習及び実習を翌年11月より麻酔科、歯科口腔外科の先生方の協力により地域医療研修センターで行うようになりました。毎年80～100名の参加者で麻酔科の先生方の最新情報を取り入れた講演、実習には私共大変勉強になりますし、また、スタッフとのコミュニケーションの強化や他医院との親睦のきっかけにもなっております。

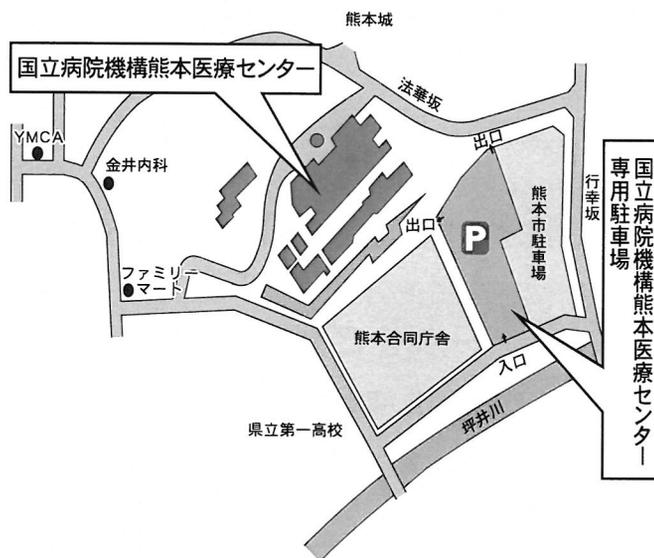
また、高齢化と共に我々の医療機関にも有病者の患者さんが増え、予期せぬ突発状況が発生しかねません。こういう不測の事態になっても登録医になっておれば瞬時に対応できるシステムを構築して頂いており、我々開業医にとってどれだけ心強い事でしょうか。

また、この病診連携をマンネリ化する事なく現況の問題点等、並びに将来の展望という事で年2回の協議会も開いております。今回は登録医の声というより歯科医師会の声になってしまいましたが、病院長をはじめ各科の先生方には大変感謝致しております。今後ともどうぞよろしく御指導の程お願い致します。

外来駐車場の変更について:訪問診療の場合

当院の第1期建替工事の開始にともない、平成16年5月10日より、外来駐車場は場内プール跡地の駐車場に移動します。新駐車場から病院まではシャトルバスを運行して、病院利用者を送迎いたします。玄関前のスペースはゲート管理となり許可車両のみの利用となります。

開放型病院登録医の先生方の訪問診療につきましては、業務のための来院となりますので玄関前スペースをご利用下さい。ゲートで駐車券をお取りになり、日勤帯(月～金曜8:30～17:15)では医事(0番窓口)、時間外では時間外受付(玄関右側)に出して頂ければ、駐車料金は無料となります。お手数ですが宜しくお願いいたします。
(内科部長 清川 哲志)



新任職員紹介 (1)



小児科

いけ だ よういちろう
池 田 洋一郎

平成16年の4月から小児科に勤務している池田と申します。はるか遠い昭和の62年に熊本大学を卒業、その後いくつかの病院に勤務しましたが、当院に赴任することになるとは夢にも思いませんでした。実際に赴任してみると、国立の機構とはこのようなものなのか！という驚きの連続ですが、何事も経験といえます

ので、そのうちに慣れるだろうと期待しています。

さて、小児科という科の一般病院における位置づけは難しいものがありまして、殆どの小児科医はそのジレンマに悩んでいるわけです。今回、当院で働くにあたり、私自身の中の小児科の位置づけに今までとは違った新しい何かしらかの意味づけを加えられたらと思います。

また、今まで学んだ医学的な知識、やり方を見直して、研修医になった気持ちで一から再構築したいというのも希望のひとつです。幸い、勉強する環境については申し分ないようですので、皆様方のご指導をよろしくお願いします。



画像診断・治療センター

放射線科

あら き ゆう し
荒 木 裕 至

こんにちは。本年4月1日より国立病院機構熊本医療センター放射線科にて勤務することとなった荒木です。平成6年に放射線科に入局し、以降熊本地域医療センター、下関厚生病院、荒尾市民病院、水俣市立総合医

療センターを経て、当センターでの勤務となりました。

画像診断の分野は日々進歩しており、当センターでも4月より多列検出型CT（マルチディテクターCT）の運用が始まったとあって、これまで以上に業務内容の充実が予想され、新たなニーズにも応えていかなければならないと思われま

す。仕事が始まってまだ間もないのですが、優秀なスタッフに恵まれ、頑張っ



総合医療センター

神経内科

た きた とも ひろ
田 北 智 弘

平成16年4月1日付けで神経内科勤務となりました田北です。平成10年に熊本大学医学部を卒業し、同年熊本大学神経内科に入局しました。その後、熊本大学附属病院、済生会熊本病院、三井大牟田病院（現在の大牟田天領病院）と転々としまして、つい先月の3月までの2年間は国立療養所再春荘病院に勤

務しておりました。再春荘病院では、筋ジストロフィーやALS、脊髄小脳変性症などの難病を中心に診ておりましたが、同時に脳血管障害や髄膜炎などの急性疾患もこちらほどではありませんが、多数診ておりました。

今年度より、当院神経内科はスタッフが総入れ替わりとなり、またレジデントが1人減り、2人体制で臨むこととなりました。少人数体制かつ2人とも経験が浅いため、ご迷惑をおかけすることも多々あるかと思いますが、日々精一杯頑張っていく所存です。諸先生方のご指導、ご協力の程、何卒よろしくお願い申し上げます。

新任職員紹介（2）



総合医療センター

神経内科

こう ぎき や の すけ
幸 崎 弥之介

平成16年4月1日付けで国立病院機構熊本医療センター神経内科勤務となりました幸崎です。

現在医師6年目となりますが、研修医2年目の平成12年4月から9月までの半年間、当院で一般内科研修医としてお世話になりました。その後は、熊本市市民病院・荒尾市民病院・済生会熊本病院脳卒中セ

ンターに勤務し、主に神経内科分野の急性疾患（脳血管障害・炎症性疾患・脱髄性疾患など）の診療にあたりました。今回4年ぶりに当院での勤務となり、医局・各病棟で以前お世話になった先生方・看護師の方々に声をかけていただくことも多く、心強く感じています。

今年度から神経内科は医師が3人から2人へ減員となりましたが、脳梗塞をはじめとする神経疾患の患者数は非常に多く、神経内科医の役割は増すことはあっても減ることはないと考えています。マンパワーが少ない分、皆さんにお世話になることが多くなるとは思いますが何卒よろしく願いいたします。



泌尿器科

ほん だ し ろう
本 多 次 朗

4月1日より国立病院機構熊本医療センターに勤務となりました本多次朗と申します。平成10年に熊本大学泌尿器科に入局し、大学病院、熊本市市民病院、水俣市立総合医療センターにておもに泌尿器科一般の診療

を行ってまいりました。昨年のご近所の野尻会熊本泌尿器科病院で働いておりました、診断や治療が困難な症例を多数、国立病院機構熊本医療センターに送らせていただき、非常に頼りになる病院という印象を強くもっております。今度はその病院で診療を行うこととなり、身の引き締まる思いであります。

至らない面も多々あるかと思いますが、早く国立病院機構熊本医療センターの診療体制にも慣れ、少しでもお役に立てるよう頑張っていきたいと思っております。諸先生方のご指導、ご支援のほどよろしく願いいたします。



泌尿器科

たの うえ けんいちろう
田 上 憲一郎

平成16年4月1日より国立病院機構熊本医療センター泌尿器科勤務となりました田上憲一郎です。平成11年

に川崎医科大学を卒業し、熊本大学泌尿器科に入局しました。大学病院・熊本市市民病院・高千穂町立病院で研修を行い、その後大学病院・八代総合病院にて臨床業務に従事してきました。研究に関しては皆無に近く、慌ただしい当病院の業務の中で、臨床研究の遂行は難しいものがありますが、菊川医長の御指導の下、精力的に泌尿器科業務を行っていきたく思いますので、御指導・御支援を宜しく御願ひ致します。

■原稿を募集致します■

登録医の先生の投稿を歓迎致します。400～800字程度を基準にお願い致します。

送付先 〒860-0008 熊本市二の丸1-5

国立病院機構 熊本医療センター 『くまびょうNEWS』編集室まで

緊急を要する

泌尿器科疾患



泌尿器科医長

菊川 浩 明

泌尿器科の救急疾患の特徴については、以前に“くまびょうNEWS 66号”に発表させて頂きましたが、今回は“明日まで待てない”泌尿器科救急疾患として、当院救命救急センター受診後、緊急手術となった症例を紹介します。

症例 1 10歳代男性

主訴 精巣部痛（下腹部痛） 朝方より急に睾丸の痛みが出現。当院受診となる。

現症 右睾丸は対側に比べ上方に挙上し腫大。発熱なし。

思春期の男性が急に睾丸の痛みを訴えた時、まず鑑別に挙がるのが、この精巣捻転（睾丸回転）症です。精巣を栄養する精索血管がねじれ、精巣が壊死を起こす疾患です。速やかに“ねじれ”を戻さないと精巣がだめになり（ゴールデンタイムは約6時間）、将来男性不妊の原因ともなり得ます。朝方、発熱を伴わず睾丸の痛み・腫れを訴える男子中高校生が受診したら要注意です。

症例 2 50歳代男性

主訴 陰茎痛 性交中に“ポキッ”と音がして陰茎の痛みが出現。

現症 陰茎は腫脹し右方向に曲がっている。

陰茎折症という病気？です。陰茎が勃起状態の時、陰茎海綿体には血液が流れこみ貯留していますが、無理な外力で海綿体を取り囲む白膜が断裂した時に発症します。断裂部位の反対側に亀頭が向きます。海綿体内の血腫を除去し白膜を縫合します。このまま放置すると、勃起不全になる可能性があり、手術が必要です。夜に多いようです。

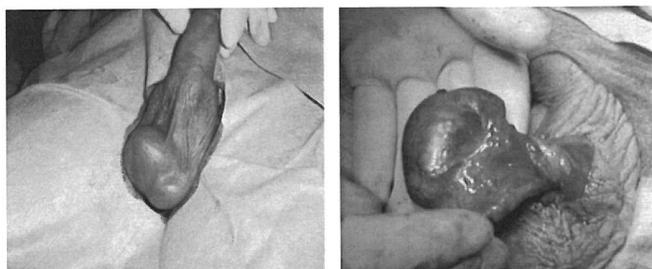
症例 3 80歳代男性

主訴 陰嚢部痛 外陰部全体が急に発赤し、高熱あり。

現症 外陰部全体に発赤あり、一部黒色化している。

フルニエ壊疽とよばれる壊死性筋膜炎です。時間単位で炎症が波及していき、敗血症を起こします。陰嚢を触診すると、細菌により発生したガスのため握雪感があります。早急にデブリードマンが必要です。異臭が強く炎症が広がった部位には広範にドレナージが必要になります。基礎疾患にDMのあることが多いようです。

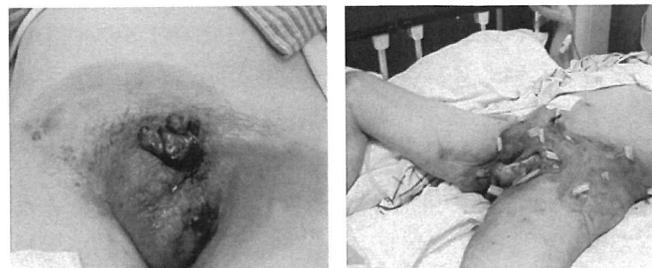
その他、尿路結石に伴う膿腎症、急性腎不全（腎後性）、腎・膀胱・尿道外傷なども緊急性が高いようです。泌尿器科疾患は救命救急センター総受診者の約2%に過ぎませんが、やはり早急な治療が必要なものも含まれています。今回、独立行政法人化を迎え、泌尿器科は5人体制で診療を行う事になりました。泌尿器科領域であれば、救急以外の疾患に対してもすべてに対応可能ですので、登録医の先生方、今後ともどうぞよろしくお願い致します。



症例 1（精巣捻転症）



症例 2（陰茎折症）



症例 3（フルニエ壊疽）

いま、熊本医療センターで
何が研究されているか

シリーズ 27回

薬疹の研究 - drug-induced hypersensitivity syndrom

皮膚科部長 前川 嘉洋



日常、薬の処方をしている私ども医師は、常にその副作用・相乗作用などを頭の隅に入れながら万全の注意を払って処方しているのは当然の医療行為と言えることと思います。それにもかかわらず、薬疹をはじめ種々の臓器障害を引き起こしたとき、私どもと患者様双方に大きな負担を与えることとなります。

当院での薬疹の現況は、発疹の病型では播種状紅斑丘疹型が最も多く、ついで蕁麻疹や紅斑がみられます。今年度は固定疹が多くみられたのが特徴的でした。また、ニューキノロン系薬剤に代表される日光過敏型もよくみられます。男女比では女性が1.2倍に多く、薬を摂る機会が女性の方が多いうことを意味しているのでしょうか。原因薬はやはり使用頻度の高い抗生物質が一番多く消炎鎮痛剤、総合感冒剤が上位3薬剤です。薬疹は通常2峰型の発症形態を示し、投与開始より2～3日目に最初のピークがあり、2週間後に2つ目のピークがみられ、その後長期にわたり内服・投与により発症する機会が続きます。「長く服用しているのになぜ」と質問を受けますが、これらは薬剤の蓄積やアレルギー反応により発症してくるものです。これらの薬疹は、投薬を中止するか他剤に変更することにより軽快しますが、なかにはステロイドの投与が必要な例がみられます。ステロイド投与は患者背景をもとに投与すべきことを、常に認識しておくべき重要な項目の一つです。

ところが内服を中止しても症状が消退せず、2峰性ないし遷延性をとる薬疹があることが知られており、この薬疹にヒトヘルペスウイルス6 (HHV-6)の再活性化が起きていることをTohyamaらが報告し、その後の研究により、drug-induced hypersensitivity syndrome (DIHS：薬剤性過敏症候群)と正式に名称が提唱され、DIHSが薬剤アレルギーとウイルス感染症の複合した新しい病態であることが明らかになってまいりました。

DIHSはStevens-Johnson症候群およびtoxic epidermal necrolysis (TEN：中毒性表皮壊死剥離症)とならぶ重症薬疹の一つです。DIHSは臨床的にきわめて特徴のある疾患で、以下のような症状を示します。まず、

全身症状を伴い、原因薬剤がカルバマゼピン、フェニトイン、フェノバルビタール、ゾニサミド、ジアミノジフェニールスルホン(DDS)、サラゾスルファピリジン、メキシレチン、アロプリノール、ミノサイクリンなどに限られ、前述しましたように薬剤投与後2～6週間後に発症しやすいこと、原因薬剤を中止しても症状が消退せず、2峰性あるいは遷延性の経過(図)をとることが特徴とされます。

HHV-6は突発性発疹の原因ウイルスであることは知られていましたが、幼児期までにはほぼ100%のヒトが感染を受け、そのウイルスは単球、マクロファージ、唾液腺などに潜伏感染し、なんらかの免疫不全状態で再活性化されると考えられています。DIHSにおいてなぜ特定の薬剤が原因となっているのか、また、薬疹においてどのような機序でHHV-6の再活性化が引き起こされるのかなどまだ不明な点が多く、今後の研究が待たれるところです。最近われわれもHHV-6 IgG抗体の上昇例を認めた薬疹の2例を経験しています。今後、薬疹の事例があった場合はDIHSのことも念頭に入れ、重症化することのない処置がとられることが望まれます。

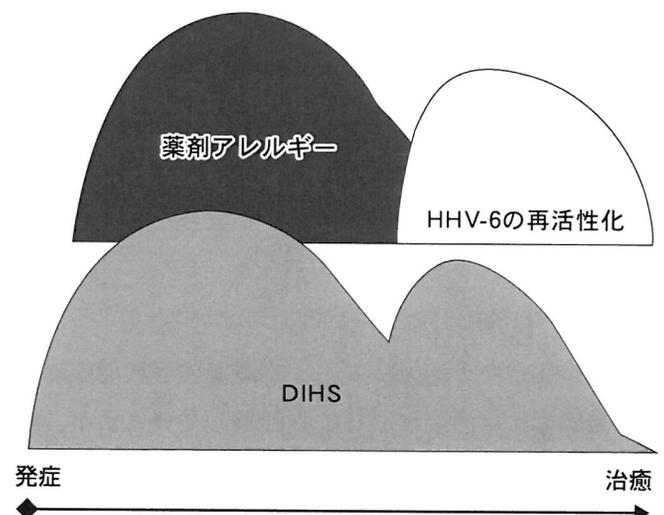


図. DIHSにおける薬剤アレルギーとHHV-6再活性化の関係 (橋本公二: drug-induced hypersensitivity syndrome 日医雑誌2003, 130:1244-1245)

■ 研修のご案内 ■

第182回 初期治療講座（会員制）

〔日本医師会生涯教育講座5単位認定〕

日時▶平成16年5月15日（土）15：00～18：00

場所▶国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

狭心症、心筋梗塞

座長 熊本市医師会 石原 章

1. 狭心症、心筋梗塞の内科的治療

国立病院機構熊本医療センター心臓血管センター循環器科医長 藤本 和輝

2. 狭心症、心筋梗塞の外科的治療

国立病院機構熊本医療センター心臓血管センター心臓血管外科医長 毛井 純一

この講座は有料で、年間10回を1シリーズ（年会費20,000円）として会費制で運営しています。但し、1回だけの参加を希望される場合は会費5,000円で参加いただけます。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501（代表）内線263 096-353-3515（直通）

第64回 月曜会（無料）

（内科症例検討会）

〔日本医師会生涯教育講座3単位認定〕

日時▶平成16年5月17日（月）19：00～20：30

場所▶国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

1. 呼吸器内科による胸部X線写真供覧

国立病院機構熊本医療センター総合医療センター内科医長 島田 達也

2. 持ち込み症例の検討

3. 症例呈示「自然経過（食事療法）で寛解したメネトリエール病の1例」

国立病院機構熊本医療センター消化器病センター消化器科 本池 晋

4. ミニレクチャー「悪性リンパ腫に対する新しい治療薬：キメラ型抗CD20モノクローナル抗体（rituximab、リツキサン）」

国立病院機構熊本医療センター総合医療センター血液・膠原病内科 長倉 祥一

5. その他

日頃、疑問の症例、興味のある症例、X線、心電図、その他がございましたら、ご持参いただきますようお願い致します。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター内科部長、副院長 河野 文夫 TEL 096-353-6501（代表）FAX 096-325-2519

第8回 熊本がんフォーラム（無料）

日時▶平成16年5月18日（火）18：30～20：30

場所▶国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

司会 熊本第一病院 河北 誠

講演：同種造血幹細胞移植関連合併症の解析とその対策

国立病院機構熊本医療センター総合医療センター血液・膠原病内科 日高 道弘

その他、一般演題を数題準備しています。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療研修センター副院長 池井 聡 TEL 096-353-6501（代表）FAX 096-325-2519

第34回 三木会（無料）

（糖尿病、高脂血症、高血圧を語る会）

〔日本医師会生涯教育講座3単位認定〕

日時▶平成16年5月20日（木）19：00～20：30

場所▶国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

1. CSII治療とインスリングルルギンの使用経験

熊本市医師会熊本地域医療センター 笹原 誉之

なお、興味のある症例、疑問・質問のある症例がございましたら、ご持参いただきますようお願い致します。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター内科医長 小堀 祥三・東 輝一郎 TEL 096-353-6501（代表）内線796

第62回 救急症例検討会（無料）

日時▶平成16年5月26日（水）18：30～20：00

場所▶国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

感覚器（眼、耳、鼻等）の救急疾患

国立病院機構熊本医療センター感覚器センター耳鼻咽喉科部長 土生健二郎

国立病院機構熊本医療センター感覚器センター眼科医長 手島 倫子

医師、薬剤師、看護師、放射線技師、臨床検査技師、栄養士、救急救命士、救急隊員、事務部門等全ての医療従事者を対象とした症例検討会です。医師以外の方にも理解できるよう配慮した内容にしています。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501（代表）内線263 FAX 096-353-3515

平成16年 研修日程表 5月

国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

5月	研修ホール	会議室、図書室	ほか
6日(木)			7:50 整形外科症例検討会 C 17~19 循環器カンファレンス C
7日(金)			8:00 消化器病研究会 C 8:00 麻酔科症例検討会 手 8:00 皮膚科症例検討会 臨 17~18 救急部カンファレンス C
8日(土)	14:00~16:00 第173回 滅菌消毒法講座《会員制》 「滅菌の基礎」 国立病院機構熊本再春荘病院麻酔科 柴田 義浩		
10日(月)			8:00 MGH症例検討会 C 16~18 泌尿器科病棟カンファレンス 別6 17~18 小児科カンファレンス 外来
11日(火)	18:30~20:30 熊本県臨床衛生検査技師会 一般検査研究班月例会	18:00~19:30 血液病懇話会(図)	8:00 救急部カンファレンス C 15~18 外科術前術後症例検討会 C 19~21 泌・放射線科合同ウログラム C
12日(水)	18:30~19:30 くすりの勉強会	16:00~18:00 皮膚科組織検討会(図)	17:00 消化器疾患カンファレンス C
13日(木)	18:30~20:30 熊本県臨床衛生検査技師会 臨床化学月例会		7:50 整形外科症例検討会 C 17~19 循環器カンファレンス C
14日(金)		18:30~20:30 熊本地区核医学技術懇話会	8:00 消化器病研究会 C 8:00 麻酔科症例検討会 手 8:00 皮膚科症例検討会 臨 17~18 救急部カンファレンス C
15日(土)	15:00~18:00 第182回 初期治療講座《会員制》【日本医師会生涯教育講座5単位認定】 座長 熊本市医師会 石原 章 「狭心症、心筋梗塞」 1. 狭心症、心筋梗塞の内科的治療 国立病院機構熊本医療センター心臓血管センター 循環器科医長 藤本 和輝 2. 狭心症、心筋梗塞の外科的治療 国立病院機構熊本医療センター心臓血管センター 心臓血管外科医長 毛井 純一		10~12 楽しく学ぶ基礎看護技術講座(1G) 学校 12~14 楽しく学ぶ基礎看護技術講座(2G) 学校
17日(月)	19:00~20:30 第64回 月曜会(内科症例検討会) 【日本医師会生涯教育講座3単位認定】	17:00~18:00 病理細胞診検討会(図)	8:00 MGH症例検討会 C 16~18 泌尿器科病棟カンファレンス 別6 17~18 小児科カンファレンス 外来
18日(火)	8:30~20:00 第8回 熊本がんフォーラム 「同種造血幹細胞移植関連合併症の解析とその対策」	18:00~19:30 血液病懇話会(図)	8:00 救急部カンファレンス C 15~18 外科術前術後症例検討会 C
19日(水)		16:00~18:00 皮膚科組織検討会(図)	17:00 消化器疾患カンファレンス C
20日(木)	19:00~20:30 第34回 三木会 (糖尿病、高脂血症、高血圧を語る会) 【日本医師会生涯教育講座3単位認定】	19:30~21:00 有病者歯科医療研究会	7:50 整形外科症例検討会 C 17~19 循環器カンファレンス C
21日(金)			8:00 消化器病研究会 C 8:00 麻酔科症例検討会 手 8:00 皮膚科症例検討会 臨 17~18 救急部カンファレンス C
22日(土)	13:30~16:30 第93回 看護卒後研修《会費制》 「入院患者の心理と看護」 聖徳大学人文学部臨床心理学科教授 岡堂 哲雄		
24日(月)			8:00 MGH症例検討会 C 16~18 泌尿器科病棟カンファレンス 別6 17~18 小児科カンファレンス 外来
25日(火)	18:30~20:30 血液研究班月例会	18:00~19:30 血液病懇話会(図) 19:00~21:00 小児科火曜会	8:00 救急部カンファレンス C 15~18 外科術前術後症例検討会 C
26日(水)	18:30~20:00 第62回 救急症例検討会 「感覚器(眼、耳、鼻等)の救急疾患」 国立病院機構熊本医療センター耳鼻咽喉科部長 土生健二郎 国立病院機構熊本医療センター眼科医長 手島 倫子	16:00~18:00 皮膚科組織検討会(図)	17:00 消化器疾患カンファレンス C
27日(木)	18:30~21:00 日本臨床細胞学会熊本支部研修会		7:50 整形外科症例検討会 C 17~19 循環器カンファレンス C
28日(金)			8:00 消化器病研究会 C 8:00 麻酔科症例検討会 手 8:00 皮膚科症例検討会 臨 17~18 救急部カンファレンス C
31日(月)			8:00 MGH症例検討会 C 16~18 泌尿器科病棟カンファレンス 別6 17~18 小児科カンファレンス 外来

(図) 図書室 C 病院本館2階カンファレンス 手 手術室控室 臨 臨床研究部会議室 別6 別6病棟 外来 小児科外来 学校 看護学校
問い合わせ先 〒860-0008 熊本市二の丸1番5号 国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター
TEL 096-353-6501(代) 内線263 096-353-3515(直通)